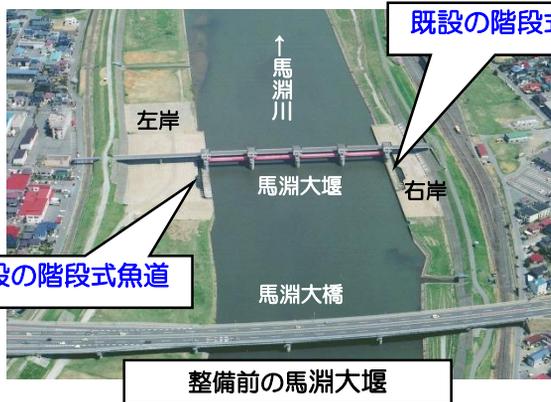


馬淵川自然再生事業(馬淵大堰の魚道整備)の取り組み

馬淵川の現状

- ・馬淵川には、アユ、ウグイ、ウツセミカジカ、サクラマス、サケ、イトヨ、モクスガニなど海と川、川の上下流を行き来する多様な魚介類が生息しています。
- ・中には、ウツセミカジカ、サクラマスなど絶滅が危惧される貴重な魚介類が含まれています。
- ・馬淵川は、「サケの捕獲・採卵(青森県で奥入瀬川について2番目)」、「中流はウグイの産卵場」、「中上流域はアユ釣り」など漁業や遊漁に利用されています。



馬淵川と海を行き来する代表的な魚介類



馬淵川の課題

- ・馬淵大堰の両岸には魚道が設置してありますが、流れが速くサケなど大型魚は上れますが、遊泳力の弱い小型魚や底生魚であるアユ、カジカ、モクスガニなどが上下流へ移動しにくい環境になっています。
- ・これらの魚介類が上下流に移動できないと、「産卵→ふ化→仔魚→降下」ができなくなり、数が減少し馬淵川から見られなくなることが危惧されます。

事業の目的

- かつての馬淵川は、魚介類の生息、上下流への移動が容易であるなど、自然環境に配慮された魚がすみやすい河川でした。馬淵大堰の整備に伴い、魚道の設置など河川の自然環境を保つよう生態系に配慮してきましたが、魚介類の移動がより容易となるよう改善・工夫することとしました。
- このため、自然豊かな馬淵川への復元を目的に、馬淵大堰の魚道を改良し、魚介類が上下流に移動しやすい環境を形成します。

馬淵大堰の整備前後の比較

整備前

- サケ、アユ、カジカなどが魚道の入口を見つけにくい
- 魚道の流れが速い
- 段差が大きい

- サケ、アユ、カジカなどさまざまな魚が、
- 海と川を移動しにくい
- 上下流へ移動しにくい

馬淵大堰の魚道は魚が上りにくいままです。

左岸魚道



整備前

魚がのぼりやすい「せせらぎ魚道」を新しく整備します。



段差が大きい

勾配がきつく、流れが速い

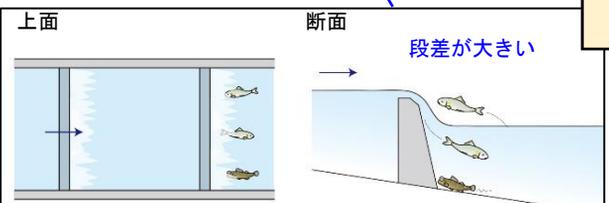
右岸魚道



整備前

段差が大きく底生魚（ウツセミカジカ、ウキゴリ等）の遡上が難しい

魚がのぼりやすい「パーティカルスロット式魚道」に改良します。



段差が大きい

整備後

- 左岸既設魚道を魚道の入口が見つけやすい呼び水水路に改良
- 自然の流れに近いせせらぎ魚道の新設
- 右岸魚道を段差のない魚道に改良

- サケ、アユ、カジカなどさまざまな魚が、
- 海と川を移動できる
- 馬淵川の上流まで移動できる

馬淵大堰の魚道は魚が上りやすくなります。

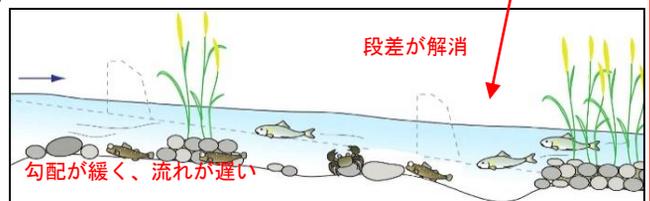
左岸魚道



整備後

呼び水水路
(既設魚道を改良)

せせらぎ魚道



段差が解消

勾配が緩く、流れが遅い

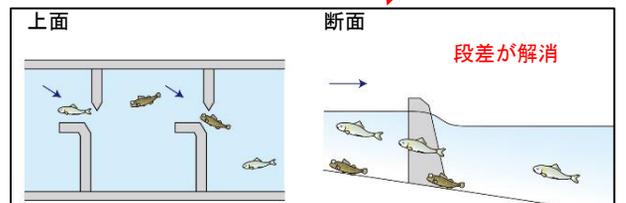
右岸魚道



整備後

段差のない魚道に改良

パーティカル
スロット式魚道



段差が解消